

CASA新聞

発行 株式会社カーザミカワ
岡崎本社 ☎0564-24-2511
岡崎市吹矢町88番地
豊田営業所 ☎0565-28-3891
豊田市豊栄町6丁目1番地

ロシア輸出禁止品目で対抗 政府の対ロ追加制裁

政府は12日、対ロ追加制裁のなかに盛り込んだ「一部木材」は、ロシアが輸出禁止とした木材、チップや単板を輸入禁止とすることを決めた。19日から施行される。ロシアへの対抗手段で、相互に制裁品目を立てあうことで政治的意思表明と産業界でのダメージの最小化を狙ったものだ。岸田文雄首相は8日、ロシアのウクライナ侵攻に伴う追加制裁として、石炭の輸入禁止やロシア最大手銀行のズベルバンクの資産凍結のほか、物資関連で機械や一部木材を輸入禁止対象品目に盛り込むことを明らかにした。12日の閣議で制裁案が提案されたなかで、不明となっていた一部木材とは、ロシアが非友好国に対する制裁品目としていた林産物と同様のチップ（HS4401、21針葉樹、同22針葉樹以外）、丸太（HS44、03）、単板（HS44、08）の3分野を指すこととした。既にロシア側からの制裁対象品目として輸出は禁止されている。また、丸太は今年1月から規定政策として輸出禁止となっており、ロシアの禁輸制裁に対抗するという点では影響は最小限に軽減されたといえる。

分野の輸入実績（2021年）は、チップ8万ト（13億円）、丸太3万6000立方メートル（9億円）、単板24万4000立方メートル（2億8500万円）で、106億円相当の貿易がいったん失われる。影響については、チップは1%、単板は輸入の82%を占めるものの、国内流通の合板原料としては2%相当という。ただしダフリカカラマツは強度面から合板やLVLなどに利用されており、代替材の採用が急がれている。

12ミリ厚3×6判を1800円に値上げ 国産針葉樹合板

国産針葉樹合板は東西双方の合板メーカーが、4月出荷分から12ミリ厚3×6判の建値を今月比100円高（一枚、1次間屋着）とする方針を打ち出した。立方材単価では同5000円高となる。内外産原木や接着剤の値上がりが続くなか、国内合板メーカーとしては価格転嫁を継続せざるを得なくなっている。今後、ロシアによる単板輸出禁止や資源価格の高騰の影響が更なる生産コスト上昇に繋がる懸念されている。

12ミリ厚品以外では、24ミリ厚3×6判が同200円高、28ミリ厚3×6判が同250円高。原材料価格の高値が続

国産合板商況 品不足への警戒感、一段と強まる

国産針葉樹合板について、ロシア産単板の禁輸などロシアによるウクライナ侵攻が生産量やコストにどれだけの影響を与えるかが警戒されている。国内合板メーカーからは「昨年後半から入荷が不安定ななかでも生産を継続できていたため、影響は限定的」との声の一方、一部の合板工場からは「2割程度の生産減になるのではない」との声も。

2月の針葉樹合板の生産出荷を見て、生産量25万3500立方メートルに対して出荷量25万1800立方メートルとほぼ均衡した状態が続いている。需要動向を見ても、直需・木建ルートも品不足が続く。プレカット会社は分譲住宅会社などの仕事

している。東北産の合板用杉丸太の中心価格は1万5000円、合板工場着4材材）と上値が前月比2000円高。数量を確保しようとするれば、上値を受け入れざるを得ない。カラ松丸太は2万7000円（同）。製材用が既に3万円を超えており、今後も値上がりが続くのが確実視されている。西日本でも合板用杉丸太は1万5000円前後の水準で推移しており、中国向け輸出の活発化から今後の値上がりも警戒されている。

生産コストが上昇する一方、国内需要は比較的堅調だ。プレカット会社は分譲住宅会社の仕事が入っており、3、4月とも忙しい。また、昨年の木材製品不足で延期となっていた非住宅木造物が4月以降活発化するということで、「まとまった数量の合板が必要となるので確保するのが大変」（問屋）との声が上がっている。

こうしたなか、ロシアによるウクライナ侵攻の影響が国産合板にも広がりそうだ。ロシア産単板の輸出禁止の生産への直接的な影響は今のところ出ていない。しかし、国産カラ松など表裏面に使える樹種も高止まりし、米松丸太も日本向け供給増が見込めないうえに高値で推移している。単板輸出禁止の影響が本格化

を抱えており、4月も比較的堅調な稼働となる見込み。合板生産量の動向次第では品不足が一段と深刻化する可能性も指摘されており、需要家の警戒感も強い。

また、原材料コストの問題も大きい。内外産原材料について、国産材は全国的に原木の争奪戦が続く、輸入材も米松丸太を筆頭に高値と供給減が解消されていない。ロシア産単板の禁輸でほかの原材料への手当てが増えれば、価格は一段と値上がりする可能性も。今回の混乱で原油、天然ガス、接着剤や物流コスト上昇に影響を与えそうだ。

名古屋

3月以降も厳しいまま、これに国産材原木の不足やロシアのウクライナ侵攻に伴うカラ松単板の禁輸など不安要素が加わり、原料確保の問題から価格の先高観が強まっている。特に構造用合板の大口需要者であるプレカット工場への影響は大きく、納期が不安定で希望数量が確保できないことから、建築現場の職人不足の問題とともに物件が先送りされるケースが多い。

構造用3×6判12ミリ厚は依然として川下の不足感が強く、価格は今月も強調整が続く。プレカット工場の引き合いが多い同24ミリ厚、同28ミリ厚は前月比100円高の展開。

する4月以降には、国産材丸太の値上がりなどで生産コストの上昇は避けられないと見られる。また、石油・天然ガス価格の上昇で一部の接着剤メーカーは既に国内合板メーカーに対して値上げを打診している。

こうした状況は短期的に解消するのは難しいと見られており、4月以降も値上がりが続くそうだ。

表示説明	値下げ	横ばい	値上げ
市況状況	ラワン薄ベニヤ	・	☂
	ファルカタ正寸12mm T2	・	☂
	針葉樹12mm 3×6	・	☂

12カ月連続で増加 2月の新設住宅着工

国土交通省は3月31日、2月の新設住宅着工を発表した。2月は6万4614戸（前年比6・3%増）と、12カ月連続で増加。持ち家以外がすべて増加し、特にマンションは前年同月より約3000戸上回った。持ち家は2カ月連続で2万戸を割った。2021年4月～22年2月の累計は78万7899戸（前期比6・7%増）となり、この増加率で計算すると21年度総数は約86万7000戸になる。

総数は、19年まで12月平均で約7万戸だったが、20年は同6万1500戸、21年は同約6万戸、そして22年は同6万2000戸と低迷している。22年1月の5万9690戸の過去最低水準から2月は6万4614戸に増加したが、マンションの3000戸増がなければ前年同月並みの6万1000戸程度だった。

そのため木造の着工戸数は、1～2月累計で前年同期比0・4%増と横ばい。木造は19年まで1～2月累計が約7万8000戸あったが、20年以降は同6万9000戸水準が続いている。なかでも持ち家が低迷し、2月は1万9258戸（前年同月比5・6%減）と前年同月比で3カ月連続の減少となった。1～2月と2カ月連続で2万戸を割り、これは20年1～2月以来になる。22年1～2月の着工推移は、

国産針葉樹合板の不足と値上がり続く 中部地区

中部地区では国産杉が強含みで推移しているが、値上がり基調には至っていない。国産材製品は、合板不足の影響で出荷が鈍化した。一方、ロシアのウクライナ侵攻などから欧州材製品には先高観があり、国産針葉樹構造用合板は不足と値上がりが続いている。国産材素材価格は、

杉が保合、杉は強含み。地方市場は合板用材の値上がりを期待しているが、杉に昨年のウツドリショック時の値のよう大幅な値上りの兆候は見られず、山側では杉の伐採をためらう状況だ。松3材柱取り、4材土台取り、6材通し柱は前月比保合、松3材柱取り、4材中目は同強保合。

国産材製品は、合板不足で製品出荷が鈍化。このため、松の柱と土台には荷もたれ感も見られる。大手市場浜岡屋は、出荷回復は価格の安定が不可欠だと指摘。また、別の浜岡屋は一部で先を見据えた手当てが見られるという。このほか、強含みの杉製品は、ロシア材の動向次第で小割材などの不足や値上がりも予想される。

「木材利用の促進に関する基本計画」策定 愛知県

愛知県は4月1日から4カ年の「木材利用の促進に関する基本計画」を策定した。県及び県内自治体、森林所有者、林業事業者、木材産業者、建築関係事業者、県民が一体となつて県産材をはじめとする木材利用を拡大するのが狙い。木材の利用目標は、

公共建築物の原則県産木材による木造化などで、県産材の利用・供給目標は最終年度（2025年度）に21年度比3000立方メートル増の18万立方メートル掲げている。これは、「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物における木材利用の促進に関する法律」及び

月比保合。ロシア材のエゾ松製品は、ウクライナ侵攻を理由にロシアへの経済制裁が続いているものの、地区内のロシア材製材工場は在庫を十分に確保している。ただ、先行きへの不安から流通筋の手当ては活発だ。エゾ松KDタルキ、胴縁はいずれも同強保合だ。

米材輸入製品は、在庫が減らず売りづらい展開が続いていたが、ウクライナ侵攻に伴うロシアへの経済制裁によつて木材需給の変化も予想され、仕入れ姿勢も強まっている。価格は保合だが、産地価格の変化や円安から先高観がある。米松KDタルキ4材×45角、米ヒバ芯去り土台5角はいずれも同保合。

欧州材商況 円安がコスト高助長

例年であれば3月上旬から活発化する第2・四半期交渉だが、今年にはウクライナ危機を発端とする世界市況の混沌を受け、産地の動き出しが遅い。主品目である輸入構造用集成材は3月2週目からラミナは3週目以降で産地の提示が増えた。現在のところ、輸入完成品は前回比50～60ユーロ高で管柱、平角とも950ユーロ（C&F、立方材）絡み、ラミナは同50～100ユーロ高で550～600ユーロ（同）が交渉の主流と見られる。

「愛知県木材利用促進条例」に基づき、木材の利用促進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための取り組み、①建築物等における木材利用促進の意義②木材利用促進のための施策に関する基本的事項③木材利用に関する目標④県産木材の利用促進及び供給に関する基本的な事項⑤県産木材の利用及び供給に関する目標等が構成される。

名古屋

木材製品全般で入荷の不透明さが増し、当面は価格維持の見通し。今後について「入荷が減れば値上げの可能性もある」（問屋）。「もう一段の国産材活用が不可欠になるだろう」（商社）という。Wウッド間柱やWウッド集成管柱は品不足の状況にはないが、直近は入荷遅れが再燃。前月に値下がりが見られたRウッド集成平角は、状況の変化から価格を維持する。問屋は「今後の住宅取得意欲減退も織り込み欧州材の発注量は増やしていない」という。

内需要だけでなく、ロシア材を輸入していた北アフリカ地域や中近東からも欧州材に追加の引き合い強い。需要が集中する欧州材だが、産地企業によつては西ロシアの生産拠点の操業を見合わせており、日本向けを含め、生産力低下の懸念が強い。日本国内の欧州材市況は落ち着いている。先行き不安はあるが、年明け以降の輸入品入荷で在庫が多いうえ、足元の需要が盛り上がり、市中にひっ迫感も広がっている。各種製品で流通価格は横ばい。現在交渉が進行中の欧州材をはじめ、その他外材のコスト高が予想されるため、引き合いが弱くてもメーカーや流通業者が目立った値下げの動きは出ていない。